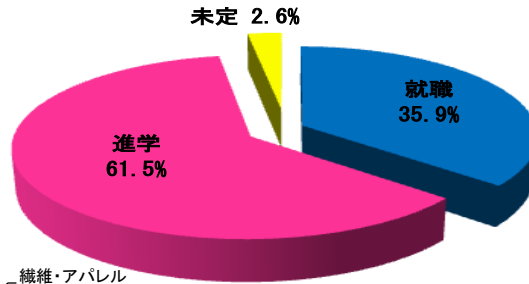
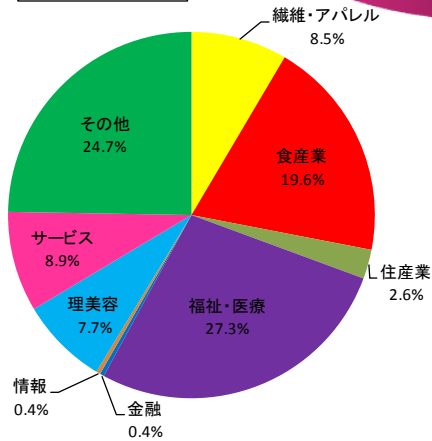


平成25年度卒業生の進路状況(平成26年3月現在)

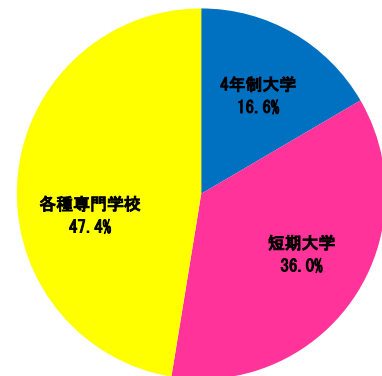
進学と就職の状況



就職の状況



進学の詳細



生活産業で活躍している卒業生の声



氏名 本郷あゆみ
 企業名 養老町立こばと保育園
 職場係名 保育士
 入社 平成24年
 出身校 海津明誠高等学校

私は、将来保育士になりたくて高校は保育の類型のある専門学科を選び入学しました。2年生からの類型の授業では、子どもに関することを多く学びました。その中でも実習を中心とした造形表現や音楽表現、手遊び等は今の仕事の基本となっています。

大学に進学し、高校の経験を活かして新たな学びを積み重ね知識も技術もより専門的になりました。途中夢を諦めかけたこともありましたが、高校や大学で経験した保育実習やインターンシップといった子どもとのふれあいの中で改めて保育士になりたいと強く思いました。

保育園では、子ども達と体を使って遊んだり、友達との関わり方、成長に合わせたマナーを教えたりと充実した毎日をご過ごしています。仕事をしていると悩んだり、反省することたくさんありますが、先輩方からアドバイスを頂き、それが次の保育へと活かされています。高校は自分の夢に近づく第一歩となる場所だと思います。様々なことを学び、経験を積み重ねながら、夢に向かって頑張ってください。



氏名 外田有梨
 企業名 岐阜県立飛騨高山高等学校
 職場係名 教諭
 入社 平成24年
 出身校 飛騨高山高等学校

私は現在岐阜県の高等学校で家庭科教員として働いています。小さなときから裁縫や料理など物を作ることが好きで、中学校の時に専門的に学習できる高校に進学することを決めました。自分で進路を決める事は初めての経験でとても悩んだこと、難しかったことを覚えています。進路について友人や家族、先生にたくさん話を聞いてもらったことも今ではいい思い出です。

高校で被服、大学で食物栄養を学習したことが、今の仕事に役立っています。学んだことを自分が伝える立場になって、一般教科の大切さに加えて、生活や職業と密着している家庭科の大切さを実感しています。生徒に興味を持って授業に取り組んでもらえるよう自分が学んだプリントを確認するなど、教えて頂いたことを授業に生かせるように努力しています。

私は母校に勤務して、生徒と一緒に成長させて貰っています。中学生の時の何かを作る仕事に就きたいという夢が形をかえて実現するとは思いませんでした。ぜひ、目標を持って時々回り道して、前向きに進んでください。